

〈解答〉

- ① 1 (1) ①：供給 ②：需要 ③：下がる (完答)  
 (2) a：イ b：ア c：ア (完答)  
 (3) 〔例〕銀行から国債を買い、銀行が貸し出せる資金を増やす。
- 2 エ
- 3 ①：下がった ②：円安 ③：輸出 (完答)
- 4 (1) 温室効果 (2) ウ

配点 ① 1 (1), (2), (3)は各2点, 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 (1) 需要量とは、買い手が商品のある価格で買おうとする量で、供給量とは、売り手が商品のある価格で売ろうとする量である。需要曲線は、一般に価格が下がるほど需要量は多くなり、上がれば需要量は減っていくので、右下がりの曲線となる。供給曲線は、一般に価格が上がるほど供給量は多くなり、下がれば供給量は減っていくので、右上がりの曲線となる。
- (2) 銀行のおもな業務は、個人や企業からお金を預かる預金業務と、これを企業などに貸し出す貸付業務がある。貸し出し金利は、預金金利よりも高いので、その差が銀行の利益となる。
- (3) 金融政策とは、日本銀行が通貨供給量を調整し、景気の安定を図るために行う政策である。2図は、金融政策の公開市場操作を示している。公開市場操作は、一般の銀行と国債などを売買することにより、市場の通貨量を調節する。不景気〔不況〕のときには国債などを一般の銀行から買い上げ、市場の通貨量を増やし、経済を活性化させる。
- 2 エ累進課税は、税金を納める人の負担能力を考えて、所得や財産が多くなるにつれて税率を高くする課税の方法である。収入の多い人から多くの税金をとり、少ない人からは少ししかとらないことから、税負担の公平化が図られている。ア間接税は、消費者はだれでも同率の税金を負担するため、所得の低い人ほど税の負担が重くなる。イ直接税は、税を納める人と負担する人が一致する税金である。
- 3 為替相場〔為替レート〕とは、ある国の通貨と他国の通貨とを交換するときの比率

である。為替相場の変動は、貿易に大きな影響を与える。例えば、1ドル＝90円から1ドル＝100円になれば、ドルの価値が上がり、円の価値は下がったことになるので、円安という。円安になると、日本の輸出企業にとっては有利になるが、輸入企業にとっては不利になる。逆に円高になると、輸出企業は不利になり、輸入企業にとっては有利になる。

- 4(1) 1997年の地球温暖化防止京都会議で、先進国に温室効果ガスの排出削減を義務づける京都議定書が採択された。地球環境問題を解決するためには、環境の保全と経済や社会の発展とを両立させ、将来の世代の幸福と現在の世代の幸福をともに満たそうとする「持続可能な社会」の考えが重要である。
- (2) ODA〔政府開発援助〕は、先進工業国の政府から発展途上国に対する経済援助である。NGO〔非政府組織〕は、民間人や民間団体による国際援助組織である。飢餓救済、開発援助、人権、環境保護、軍縮・平和などさまざまな問題を積極的に取り上げ、自主的な活動を行っている。PKO〔国連平和維持活動〕は、国際連合が紛争地域に平和維持軍や停戦監視団を派遣して平和を保とうとする活動である。WTO〔世界貿易機関〕は、貿易に関する国際機関である。